

近年の看護研究におけるエスノグラフィーについて

小林 小百合・田中 あゆみ・松戸 典文・武田 藍*

An overview of ethnography in recent nursing research

Sayuri KOBAYASHI, Ayumi TANAKA, Noribumi MATSUDO, Ai TAKEDA*

抄録

エスノグラフィーは質的研究の一つとして広く知られており、看護研究においても、エスノグラフィーを用いた論文を目にすることも多い。本稿では、近年のエスノグラフィーを用いた看護研究について概観した。系統的な検索には至らなかったが、「エスノグラフィー and 看護」をキーワードとし、医中誌 Web と CINAHL Plus with Full Text を用いて、過去3年間に発行された原著論文のうち、本文が容易に入手可能であるもので、臨床現場またはそれに近い環境下で実施されたもの、あるいは看護への示唆が具体的であった文献23本（国内文献11本、海外文献12本）を選択した。病院や地域をフィールドとした研究は13本、インタビューのみ、または記事からデータ収集した研究が6本、臨床の多職種連携における看護学生らの学習に関する研究が2本、研究者自身が研究対象者になった研究は海外文献に2本存在した。

キーワード：看護，エスノグラフィー，質的研究

Key words : nursing, ethnography, qualitative research

I. はじめに

エスノグラフィーは質的研究の一つとして広く知られている (Prasad, 2005)。看護研究においても、エスノグラフィーを用いた論文を目にすることも多い。本稿では、近年のエスノグラフィーを用いた看護研究について概観し、研究方法としての可能性と課題を考察する。

本論に入る前に、エスノグラフィーについて整理しておく。マイケル・アングロシーノの著書 (Angrosino, M., 2007) によれば「エスノグラフィーは、人間集団—その制度、対人行動、有形のモノ、信念などを描く芸術であると同時に科学である」と定義している。いうまでもなく、エスノグラフィーは人類学に起源をおく研究方法であり、植民地時代に先進国の研究者が未開の地に

暮らす人々の生活の場でフィールドワークを行い、彼らの文化について描き出すことから始まった。その後、人類学の分野でも発展を遂げつつ、さまざまな地域の様々な社会状況を描き出すために、多くの学問分野でエスノグラフィーが採用されるようになった。その過程で、広範な理論と関連し、パラダイムシフトを経験し、新たな方向性が提示されてきた (Angrosino, M., 2007; 藤田ら, 2013; Prasad, 2005)。具体的には、伝統的なスタイルのほかに、ライフヒストリーやナラティブ・エスノグラフィー、ネイティブ・エスノグラフィー、フェミニスト・エスノグラフィー、オートエスノグラフィー、フォーカスト・エスノグラフィーなどの新しいアプローチが登場している。

また、エスノグラフィーは過程と記述された成

*駒沢女子大学 看護学部 看護学科

果物の両方を指すので、他の質的研究、たとえばグラウンデッドセオリーや現象学的アプローチ等も、フィールドにおいてその対象者を理解するという過程では、エスノグラフィーの要素が含まれ、研究方法としてエスノグラフィー法を用いて観察したと記述される場合も少なくない。Spradley, J. (1979) もその著書の中で、エスノグラフィーがグラウンデッドセオリーに貢献したと述べている

II. 文献レビューの方法

論文の検索は、「エスノグラフィー and 看護 (ethnography and nursing)」をキーワードとし、本学図書館のデータベースより医中誌 Web と CINAHL Plus with Full Text を用いて、2019年から2022年7月までに発行された原著論文を対象とした。検索された文献のうち、本文が容易に入手可能であるもので、臨床現場またはそれに近い環境下で実施されたもの、あるいは看護への示唆が具体的であった文献を概観した。したがって、本稿は研究計画書に基づいた系統的な文献レビューではなく、網羅的に看護研究におけるエスノグラフィーを用いた研究論文を概観したものではないことをあらかじめ明記しておく。

上記の過程を経て、国内文献11本（うち英語論文1本）、海外文献12本（英語論文のみ）について、研究目的 (purpose) と、研究方法 (method) の①データ収集、②対象、③調査期間、④その他研究方法に関する記載について、一覧表にまとめ、概観した。

III. 近年の看護研究における状況

1. 国内文献

エスノグラフィーを用いた我が国の看護研究11本を表1にまとめた。

病院をフィールドとした研究は6本あり、いずれも参加観察といったフィールドワークとインタビューによってデータ収集が行われていた（文献No.2、4、5、6、9、11）。表中には記載していないが、臨床現場への「参加」であるため、6

本中5本については看護師免許を有する研究者がフィールドワークを行っていた。また、1本は医師が covid-19病棟で働く看護師を対象に認識の変化について調査しており、観察手法としてエスノグラフィーを用いていた（文献No.4）。

保健師活動に関する研究（文献No.7）についても、「地域」を文字通りフィールドとしてデータ収集を展開しており、看護職者として資格を有する研究者がフィールドワークを実施している。

これらの研究は、臨床現場で起こっていることへの理解とその記述を目的としており、まずは臨床現場に受け入れてもらってフィールドワークが実施できなければ、そもそも研究が始められない。社会学や心理学といった他の学問領域の研究者による臨床現場を対象とした研究も存在するなかで、臨床現場の状況をより深く理解し、厚い記述 (thick description) として描く上で、研究者が看護職や保健師としてフィールドに参加できることは強みであると考えられる。

インタビューのみをデータとして扱っている研究は3本（文献No.1、3、8）だった。いずれも、看護援助につなげるための対象理解、あるいは援助者としての看護師や他の専門職者理解を目的とした研究であった。これらの研究は、在日ブラジル人妊産褥婦、看取りを経験した看護師、病院内で死者へのケアを行う宗教者を対象としており、そのコミュニティへの直接的参加に先行して、まずはインタビューという手法によってアプローチが試みられたのではないかと推察する。また、同じようにフィールドワークではなく、機関紙に掲載された記事をデータとした研究が1本存在した（文献No.10）。英国永住の高齢者が老年期に生じるであろう慢性障害をどのように考え、取り組んでいるのかについて分析した研究であり、「英国永住」という共通の背景をもつ集団へのアプローチという点で、エスノグラフィーというキーワードでヒットしたと思われる。

データ収集を行う調査期間については、4ヶ月から35ヶ月であった。期間の表記ではなく、フィールドワークやインタビューに要した時間や

表1 エスノグラフィーを用いた日本の看護研究

No.	Title	Author	Source/ publication YR	purpose	method
1	在ブラジル人妊産婦の社会関係と心身の健康に関する援助探索行動	畑下博世, 他	国際保健医療/2022	ブラジル人妊産婦の社会関係と心身の健康状態に関する援助探索行動を明らかにする	①データ収集:半構造化面接 ②対象:A・B 県在住ブラジル人妊産婦 18 名 ③調査期間:2013 年 10 月-2014 年 3 月(6ヶ月) ④その他研究方法に関する記載:分析的エスノグラフィー
2	精神療養病棟の治療構造における病棟規則の機能についてのエスノグラフィー	神成真, 他	日本看護科学会誌 /2021	精神療養病棟の治療構造における病棟規則の機能を明らかにすること	①フィールドワーク(既存書類の閲覧、参加観察(消極的な参加/シャドウイング、フォーマル・インフォーマルインタビュー) ②インフォーマルインタビューは患者・看護師、フォーマルインタビューは病棟管理者等(11名)、setting 精神療養病棟3施設4病棟 ③2015年2月-8月(7か月) ④構造機能主義を理論的背景としたエスノグラフィー
3	看護師達の看取りにまつわるフォーカロア 教科書に載らない看取りの語り	本多 容子, 他	藍野大学紀要/2021	看護師の「看取りにまつわるフォーカロア」の存在を確認すること	①半構造化面接 ②看護師 10 名 ③調査期間は記載なし
4	Overcoming the challenge of COVID-19: A grounded theory approach to rural nurses' experiences	Ohta, R., 他	Journal of General and Family Medicine/2021	COVID-19 への備えと COVID-19 病棟で働くことについての看護師の認識の変化を調べる	①半構造化面接、参加観察 ②Unnan city hospital の covid-19 病棟で勤務する看護師 16 名 ③参加観察時間 70 時間、面接 16 人に 32 回 ④観察はエスノグラフィー、分析はグランデッドセオリー
5	せん妄リスクのある患者への看護実践の知 一般病棟におけるエスノグラフィ研究	長谷川真澄, 他	老年看護学/2021	看護師が日常行っているせん妄リスクのある患者への看護実践を記述し、そこからせん妄ケアの核となる文化的テーマを特定すること	①参加観察(ケアへの同行)、半構造化面接 ②一般病棟でせん妄症状のある患者の看護援助5年以上経験した看護師9名 ③2017年11月-2018年3月(A病棟)、2019年1-2月(B病棟)(7か月) ④「文化的テーマ」の設定に Spradley(参加観察法入門)参照
6	無床診療所で医療安全に取り組んでいる看護師の安全文化 無床診療所におけるエスノグラフィー	小林美雪, 他	日本看護研究学会雑誌/2021	無床診療所における看護師の安全文化を明らかにすること	①参加観察、面接(フォーマル・インフォーマルインタビュー) ②地方都市の無床診療所である A 耳鼻咽喉科の看護師 5 名 ③データ収集期間 13 ヶ月、観察 102 時間 56 分、インタビュー 5 時間 4 分 ④エスノグラフィーの文献として箕浦(フィールドワークの技法と実際:マイクロエスノグラフィー)、波平(文化人類学カレッジ版)を参照
7	原子力災害に備える保健活動に関するエスノグラフィー—原子力発電所立地地域の市町村保健師の内情の開示—	大森純子, 他	日本地域看護学会誌 /2021	原子力災害に備える保健活動に関する原子力発電所立地地域の市町村保健師の内情を文化として記述すること	①フィールドワーク(観察、インタビュー、公開資料の閲覧) ②キーインフォーマント(市町村保健師)とプライマリインフォーマント(保健所保健師・病棟保健師・看護師・医師・行政職員等)25 名 ③2015 年 11 月-2018 年 9 月(35 ヶ月) ④「文化」の定義に Spradley(Participant observation)参照
8	宗教系病院における死亡した非信者患者及びその家族への宗教者によるケア	山本佳世子, 他	天理医療大学紀要 /2021	宗教系病院における死亡した非信者および家族への宗教者によるケアを明らかにすること	①半構造化面接 ②宗教者の活動の実績の蓄積がある 4 病院の宗教者 23 名 ③2019 年 9 月、2019 年 3 月、2017 年 11-12 月 ④分析に用いた主題分析は(Ressman の Narrative Methods for the human Sciences)を参照
9	顎顔部骨移植術を受けた患児の離床室における看護師の援助—ある小児科病棟の離床場面におけるエスノグラフィー—	井上清香, 他	川崎医療福祉学会誌 /2020	顎顔部骨移植術後の離床室において看護師が患児と保護者をどのように捉え判断し、どう関わったのかを明らかにすること	①参加観察、半構造化面接 ②A 病院形成・美容外科で顎顔部骨移植術を受けた患児・保護者・看護師の 4 組 ③2015 年 3 月-12 月(10 か月) ④小田(エスノグラフィー入門)参照
10	A 会に属する日本からの英国永住者の老年期の慢性障害に備える健康の視点 機関紙を用いた予備的研究	高橋良幸	東邦大学健康科学ジャーナル/2019	A 会に属する日本からの英国永住者が慢性障害が生じる老年期を豊かに過ごすために、どのように考え取り組んでいるのか、彼らの健康の視点を明らかにすること	①A 会会長に許諾を得て機関紙を入手 ②機関誌(初号から 17 号)に掲載された記事 ③(研究期間は 2017 年 11 月-2018 年 3 月) ④分析は KJ 法
11	頭頸部がんとなった 2 型糖尿病患者におけるがん治療の経験	中川さと, 他	Journal of Japan Academy of Diabetes Education and Nursing/2019	頭頸部がんとなった 2 型糖尿病患者におけるがん治療の経験から変化する身体や心理状態を明らかにすること	①参加観察(ケアに同行)、半構造化面接、カルテ閲覧 ②特定機能病院 1 施設の頭頸部外科病棟入院の患者 8 名 ③H25 年 6 月-H26 年 1 月(8 か月) ④Roper(看護における質的研究 1 エスノグラフィー)参照

面接回数を記載しているものもあった。どの程度の期間をかけて調査するのかは、もちろん研究目的による違いであり、その多寡に価値があるわけではない。例えば、今回の文献の中で原子力災害と保健師活動を記述した研究(文献 No.7)は 35 ヶ月間にわたるフィールドワークを行なって

いる。病棟・病院という単位に比較して複数の自治体の保健師らを対象としているため物理的な範囲が広いこと、保健師の活動の背景にある原子力災害対策についての理解をしながらのフィールドワークであるため、長い期間が必要だったと考える。読者としては、記述しようとする状況に相応

しい調査ができているか、そのために質も量も十分な調査が行われているのか、その最終評価が読み手に委ねられると認識する必要がある。

2. 海外文献

エスノグラフィーを用いた海外の看護研究12本を表2にまとめた。

病院をフィールドとした研究は5本(文献No.1、5、6、7、10)、在宅ケアの現場をフィー

ルドとした研究は1本(文献No.12)だった。これら6本のうち5本は国内の研究同様、フィールドワークとして参加観察とインタビューによるデータ収集を行っていた。唯一、covid-19の影響下における麻酔専門看護師の実践を記述した研究(文献No.6)は、オンラインによるインタビュー調査を実施していた。感染拡大中の調査であること、研究成果の公表が速やかに行われることに大

表2 エスノグラフィーを用いた海外の看護研究

No.	Title	Author	Source/ publication YR	purpose	method
1	It takes three to tango: An ethnography of triadic involvement of residents, families and nurses in long-term dementia care	Koster, L., 他	Health Expectations /2022	入居者、家族、看護師の3者の関係の中で、生産的なケア提供への関与がどのように達成されたのかを説明すること	①データ収集: シャドーイングリサーチ ②対象: 入居者(認知症)、その家族、10人の看護師 ③調査期間: 2014年8月-2016年8月(25ヶ月) ④その他研究方法に関する記載: ethnographic approach
2	Knowledge and Infant Feeding Practices' Influence on Arab Immigrant Mothers' Initiation and Exclusive Breastfeeding	Dorri, R., 他	MIDDLE EAST JOURNAL OF NURSING /2021	アラブ人の母親の知識と乳児ケアの実践が、完全母乳育児に関する決定にどのような影響を与えているかを説明すること	①半構造化面接 ②産後6ヶ月以内でカナダ在住5年未満の10人の女性 ③記載なし。(インタビュー時間は60-90分/人) ④クリティカル・エスノグラフィー Carpsucker P. (Critical ethnography in educational research: A theoretical and practical guide.)参照 理論的背景は批判的社会理論(CST)、本人の第一言語でインタビュー実施
3	The gendered role of pastoral care within tertiary education institutions: An autoethnographic reflection during COVID-19	Winnington, R., 他	Nursing Praxis in Aotearoa New Zealand /2021	Covid-19のパンデミックを通じて、(女性研究者である自分達の)看護学生をサポートする際の(心のケアという)感情労働の経験と、アカデミア内でのこの重要な仕事の不可視性について(ジェンダー不平等による現状を)内省すること	①②covid-19第1波の間に共有された2名の著者の「four academic pastoral care experiences」をデータとして、その経験を振り返り記述 ③記載なし ④コラボレイティブ・オートエスノグラフィー Collaborative autoethnography: Chang, H. (Collaborative autoethnography) 参照
4	Enhancing the Facilitation of Interprofessional Education Programs: An Institutional Ethnography	Nadine Ezzeddine, N., 他	Nurs. Rep. /2021	アトランティックカナダの1大学のIPEプログラムにおいて、IPEファシリテーターが実施する作業プロセスのうち学生のステレオタイプに関連する作業プロセスを特定すること、これらの作業プロセスを決定した制度上の規則、規制、および制限を説明すること	①観察、インタビュー、フォーカスグループ、テキスト(コースのシラバス、教材、ケース、フレームワーク、モデル、ファシリテーターガイド) ②個別面接はIPEファシリテーター3名、IPE調整委員会代表者2名、フォーカスグループインタビューFGI(2回)は看護学生とファシリテーター。すべての参加者は電子メールで募集 ③記載なし、個別面接は60-90分/人、FGIは90分/回 ④institutional ethnography: Smith, D.E. (Institutional Ethnography as Practice) 参照
5	Organizing work in local service implementation: an ethnographic study of nurses' contributions and competencies in implementing a municipal acute ward	Krone-Hjertstrom, H., 他	BMC Health Services Research /2021	一般的なMAW (municipal acute ward) モデルが地方でどのように実施されたか、看護師がこのプロセスにどのように貢献したか、そして彼らの仕事の基盤にある能力は何かについて、MAWモデルの実施プロセスと看護実践の側面を探索するために、看護師がどのように働き、MAWの実施に貢献するかを説明すること	①フィールドワーク(シャドーイングによる観察)、医療従事者との現場でのインタビュー、救急クリニックでの看護師(n=8)との個々の詳細なインタビュー ②MAWの看護師、医師 ③2014年9月-2015年6月(10ヶ月)、観察は250時間 ④理論的背景はthe theory of the social organization of healthcare work. 方法に関する文献: Côté-Boileau É, 他 (Organizational Ethnographic Case Studies)、Czarniawska B. (The Uses Of Narrative In Organization Research)、Czarniawska B. (Writing management - organization theory as a literary genre) 参照
6	From the Operating Room to the Front Lines: Shared Experiences of Nurse Anesthetists During the Coronavirus Pandemic	Marjorie Everson, M., 他	AANA Journal /2021	麻酔専門看護師ORNAの実践に対するCOVID-19の影響を明らかにすること	①オンラインによるインタビュー3名、FGI6回 ②麻酔専門看護師29名、インタビューデータは100ページ以上 ③記載なし ④フォーカスド・エスノグラフィー: Knoblauch H. (Focused ethnography) 参照
7	To stay in touch - intensive care patients' interactions with nurses during mobilization	Bunzel, A., 他	Scand J Caring Sci /2020	モビライゼーションに対する集中治療の患者の反応と相互作用を明らかにすること	①看護師によるモビライゼーションを受けている患者の観察、ケアを実施した看護師へのインタビュー ②ICU患者12名、看護師10名 ③2016年5月-10月(6ヶ月) ④フォーカスド・エスノグラフィー: Knoblauch H. (Focused ethnography) 参照

8	From regulation to practice: Mapping the organisational readiness for registered nurse prescribers in a specialty outpatient clinic setting	Daniel, R., 他	Nursing Praxis in Aotearoa New Zealand /2020	ニュージーランドのある看護師（筆頭著者）が専門外来クリニックで看護師処方者になるまでのジャーニー（履歴）をマッピングで記述すること	①経験のマッピング ②筆頭著者 ③2016年9月-2017年11月（RN処方者になるまでの15ヶ月）、2017年12月-2019年8月（RN処方資格の完了に続く19か月の期間+α） ④institutional ethnography (IE) :Adams, S., Institutional ethnography) 参照
9	Exploring life history methodology in chronic illness: a study in Relapsing Remitting Multiple Sclerosis	Burke, T., 他	AUSTRALIAN JOURNAL OF ADVANCED NURSING /2019	看護師がより深く理解しそれに応じて看護ケアを計画・調整できるように、慢性疾患である再発性寛解性多発性硬化症（RRMS）の患者の生きた経験を記述すること	①半構造化面接 ②再発性寛解性多発性硬化症の患者13名 ③記載なし ④ライフヒストリー: De Chesnay, (Nursing research using life history)、半構造化面接: Kvale, S. 他 (Introduction to interview research) 参照
10	Paediatric nurses' adoption of aseptic non-touch technique	Isaac, R., 他	British Journal of Nursing /2019	無菌の非接触技術の採用時に、NHSの児童保健サービス内の臨床スタッフが直面する課題についての洞察を得ること	①参加観察、半構造化面接 ②看護師6名 ③参加観察1ヶ月、インタビューは7.5時間 ④フォーカスト・エスノグラフィー: Cruz EV, 他 (The use of focused ethnography in nursing research) 参照 分析はWolcott HF. (Transforming qualitative data: description, analysis, and interpretation) 参照
11	Emotions and clinical learning in an interprofessional outpatient clinic: a focused ethnographic study	Jakobsena, F., 他	JOURNAL OF INTERPROFESSIONAL CARE /2019	臨床の専門職間の文脈下での、学生の学習における活動、結果、認識、および社会的な感情の役割について、自己報告と観察されたこれらの4種類の感情の関係を調査すること	①半構造化面接、観察 ②医学生7名、看護学生3名 ③2015年12月-2016年3月のうちの12日間（72時間） ④フォーカスト・エスノグラフィー: Higginbottom, G. 他 (Guidance on performing focused ethnographies with an emphasis on healthcare research) 参照
12	Gaming the system to care for patients: a focused ethnography in Norwegian public home care	Strandas, M., 他	BMC Health Services Research /2019	ノルウェーの在宅ケアにおける組織システムについて、看護師と患者はどのような認識と経験を持っているか、彼らはどうのような行動をとるのか、彼らの行動に対する理解と理由は何か、を明らかにすること	①参加観察、半構造化面接 ②看護師10名、患者8名 ③2015年-2016年の8ヶ月 ④フォーカスト・エスノグラフィー: Roper JM, 他 (Ethnography in nursing research)、Higginbottom G, 他 (Guidance on performing focused ethnographies with an emphasis on healthcare research)、Cruz EV, 他 (The use of focused ethnography in nursing research) 参照

きな価値があることが理由ではないかと推察する。国内文献でも covid-19の影響下での看護師について調査した研究が存在するが、研究者が同じ臨床現場の医師であったことがフィールドワークの有無の違いだったと言える。covid-19のように、その知見を速やかに臨床現場で共有すべき事象については、臨床現場に研究を推進し発信できる人材が存在することが強く望まれる。

同じく、フィールドワークとインタビューによってデータ収集した研究のうち、看護学生やファシリテーターらを対象とし、臨床現場での多職種連携の協調に繋がるプログラムとして多職種連携教育（IPE）プログラムを扱った研究（文献No.4）と、臨床現場の中で多職種連携を学ぶ医学学生と看護学生について学習と感情に焦点を当てた研究（文献No.11）が存在した。教育の受け手である学生がどのような学びの体験をしているのかを明らかにすることで、より有効なプログラムや教育環境への示唆を得ようとする研究であった。

インタビューのみでデータ収集した研究は、前述の文献No.6の他に2本（文献No.2、9）だった。アラブ人の母親の完全母乳育児に関する研究と再発性寛解性多発性硬化症の患者の経験に関する研究であり、看護ケアの対象者を理解するために実施されていた。また、再発性寛解性多発性硬化症の患者の経験に関する研究（文献No.9）は、エスノグラフィーの中のライフヒストリー（Angrosino, 2007；藤田ら, 2013）といわれる方法を採用していた。

フォーカスト・エスノグラフィーを標榜している研究は5本存在した（文献No.6、7、10、11、12）。それぞれの研究タイトルに含まれる表現は、対象フィールドや人、事象を具体的に表現している印象がある。（以下、参考までに筆者らの意識を列記する。文献No.6：手術室から covid-19の最前線における麻酔専門看護師の実践、文献No.7：集中治療を受けている患者への看護師によるモビライゼーション、文献No.10：小児科看護

師の無菌非接触技術の適応、文献 No.11：専門職外来クリニックでの学生の感情と臨床の学び、文献 No.12：ノルウェーの公共在宅ケアにおける患者をケアするシステムを操作すること)。一般的に、悉皆調査でない限り、研究は何らかの基準でピックアップした標本を調査するデザインで実施されるものだが、フォーカスト・エスノグラフィーを標榜したこれらの研究は、文字通り特定の対象フィールドや人、事象に「フォーカス」する意図が強く働いていたのだと思われる。

さらに、国内での研究では存在しなかったが、研究者自身を対象として記述した研究が2本(文献 No.3、8)あった。女性研究者である2名の著者が、COVID-19の影響下におけるアカデミアの中での自分達の経験を元に、ジェンダー不平等がどのように影響していたのかを描いた研究(文献 No.3)は、コラボレイティブ・オートエスノグラフィーが採用されていた。オートエスノグラフィーは、「調査者が自分自身を研究対象とし、自分の主観的な経験を表現しながら、それを自己再帰的に考察する」方法である(藤田ら, 2013)。この研究では、女性研究者として共通の経験を持つ2名の著者が共同して一連の研究を実施したので、コラボレイティブ・オートエスノグラフィーとなっている。一方、看護師処方者になるまでの変遷について、自身の経験をマッピングで描いた研究(文献 No.8)は、インスティテューショナル・エスノグラフィーが採用されていた。椎野(2019)は、インスティテューショナル・エスノグラフィーという研究方法を「人々の生活の編成や、社会的に連係した性格を、目にみえるようにし、解明することを目指す、理論的情報に基づいた研究アプローチである」と説明している。したがって、自身の経験を対象にしているという観点では、この研究もオートエスノグラフィーのカテゴリにも属すると言えるが、看護師処方者という新しい社会的役割と組織づくりに貢献することを意図した研究であったために、インスティテューショナル・エスノグラフィーとして表記されたと考える。

調査期間についての記述は多様で、記載してい

ない研究もあったが、基本的には国内文献で考察したように、その研究の目的に応じて適切な設定がされていると推察される。記載自体がない研究については、その真偽は定かではないが、厚い記述として詳細な内容が描かれることを考えると、調査期間の明示すらも研究対象の特定に繋がることを考慮した上での倫理的な配慮である可能性もある。

IV. おわりに

エスノグラフィーを用いた看護研究について、過去3年間に発行された国内文献11本と海外文献12本を概観した。系統的な文献検討には至らなかったが、全体を通して看護研究におけるエスノグラフィーの可能性と課題について考察を述べる。

一点は、研究の理論的背景についての記述である。国内文献に比して海外文献では、理論的背景や研究方法に関する記述が明確である印象を持った。エスノグラフィーの種類もクリティカル・エスノグラフィー、オートエスノグラフィー、フォーカスト・エスノグラフィー、ライフヒストリーと明記された文献がほとんどであった。他の質的な研究と比較しても、エスノグラフィーというデザインの守備範囲は広く、ゆえに、何を重視してこのデザインを採用し、何を描こうとしているのかを明記することは重要である。エスノグラフィーと関連する理論は、構造-機能主義、シンボリック相互作用論、フェミニズム、ポストモダニズムなど多岐にわたる(Angrosino, 2007)が、研究者は、自らが調査し、記述しようとしている状況に対して、どのような理論的背景で対峙しているのかを明確に自覚することが求められる。

さらに、時代の変遷によって、かつて実証主義的な「真実」の存在を目指していたエスノグラフィーも、現在では描きうるのは部分的な真実であるということが、このデザインを用いる研究者に自覚されてきている(藤田ら, 2013)。そのため、フィールドワークを行なった自分自身は、調査対象であるフィールドでどのような存在であったのかについて、その成果物としてのエスノグラ

フィーに何らかの自己再帰的な記述を行う研究者も少なくない。今回概観した研究の中では、海外文献のうち文献 No.3と No.8は、オートエスノグラフィーとして、研究者自身の立ち位置が詳細に記述されていたが、その他のエスノグラフィーにおいても、前述した理論的背景の明示と合わせ、調査フィールドにおける自分の存在を内省し、自らが関わったことによって描き出された研究成果であることを自覚しなければならない。

理論的背景と自己再帰性について課題を提示したが、今回の文献で最多だったのは、看護ケアの対象者をより深く理解するために実施されたエスノグラフィーであった。このことは、より良い看護実践のために、この研究デザインが有効であることの証だと考える。病名や年齢、性別、社会階層といった人口統計学的なラベルでは見えてこない個々の人間にとって、健やかに暮らすことや病とともに生きていくことがどんな経験なのか、看護職者である私たちは、このエスノグラフィーという研究デザインから得ることができる知見は大きいと考える。

文献

- Angrosino, M. (2007) / 柴山真琴 (2016) : 質的研究のためのエスノグラフィーと観察
SAGE 質的研究キット 3, 1-23, 東京:新曜社.
- Bunzel, A., Weber-Hansen, N., Laursen, B. (2020) :
To stay in touch intensive care patients' interactions with nurses during mobilization, *Scand J Caring Sci*, 34, 948-955.
- Burke, T., Patching, J. (2019) : Exploring life history methodology in chronic illness : a study in Relapsing Remitting Multiple Sclerosis, *AUSTRALIAN JOURNAL OF ADVANCED NURSING*, 36 (4), 45-52.
- Daniel, R., Adams, S., Cook, C. (2020) : From regulation to practice : Mapping the organisational readiness for registered nurse prescribers in a specialty outpatient clinic setting, *Nursing Praxis in Aotearoa New Zealand*, 36 (1), 31-41.
- Dorri, R., Donnelly, T., McKiel, E., et al. (2021) : Knowledge and Infant Feeding Practices' Influence on Arab Immigrant Mothers' Initiation and Exclusive Breastfeeding, *MIDDLE EAST JOURNAL OF NURSING*, 15 (3), 3-12.
- 藤田結子, 北村文 (2013) : 現代エスノグラフィー, 18-37, 40-53, 96-111, 東京:新曜社.
- 長谷川真澄, 栗生田友子, 道信良子, 他 (2021) : せん妄リスクのある患者への看護実践の知一般病院におけるエスノグラフィ研究, *老年看護学*, 26 (1), 69-78.
- 畑下博世, 鈴木ひとみ, 河田志帆, 他 (2022) : 在日ブラジル人妊産褥婦の社会関係と心身の健康に関わる援助探索行動, *国際保健医療*, 37 (1), 25-33.
- 本多容子, 南朗子, 前川麻記, 他 (2021) : 看護師達の看取りにまつわるフォークロア 教科書に載らない看取りの語り, *藍野大学紀要*, 33, 71-79.
- 井上清香, 中新美保子 (2020) : 顎裂部骨移植術を受けた患児の離床時における看護師の援助—ある小児科病棟の離床場面におけるエスノグラフィー—, *川崎医療福祉学会誌*, 30 (1), 117-127.
- Isaac, R., Einion, A., Howard, T. (2019) : Paediatric nurses' adoption of aseptic non-touch technique, *British Journal of Nursing*, 28 (2), 16-22.
- Jakobsena, F., Musaeusb, P., Kirkebya, L., et al. (2019) : Emotions and clinical learning in an interprofessional outpatient clinic : a focused ethnographic study, *JOURNAL OF INTERPROFESSIONAL CARE*, 33 (1), 57-65.
- 神成真, 澤田いずみ, 道信良子, 他 (2021) : 精神療養病棟の治療構造における病棟規則の機能についてのエスノグラフィー, *日本看護科*

- 学会誌, 41, 88-97.
- 小林美雪, 小村三千代 (2021) : 無床診療所で医療安全に取り組んでいる看護師の安全文化 : 無床診療所におけるエスノグラフィー, 日本看護研究学会雑誌2021, 44 (1), 87-98.
- Koster, L., Nies, H. (2022) : It takes three to tango : An ethnography of triadic involvement of residents, families and nurses in long-term dementia care, *Health Expectations*, 25, 80-90.
- Krone-Hjertstrøm, H., Norbye, B., Abelsen, B., et al. (2021) : Organizing work in local service implementation : an ethnographic study of nurses' contributions and competencies in implementing a municipal acute ward, *BMC Health Services Research*, 21, 2-14.
- Marjorie Everson, M., Wilbanks, B., Hranchook, A., et al. (2021) : From the Operating Room to the Front Lines : Shared Experiences of Nurse Anesthetists During the Coronavirus Pandemic, *AANA Journal*, 89 (2), 109-116.
- Nadine Ezzeddine, N., Price, S. (2021) : Enhancing the Facilitation of Interprofessional Education Programs : An Institutional Ethnography, *Nurs.Rep.*, 11,547-557.
- 中川さとの, 稲垣美智子, 多崎恵子 (2019) : 頭頸部がんとなった2型糖尿病患者におけるがん治療の経験, *Journal of Japan Academy of Diabetes Education and Nursing*, 23 (2), 155-162.
- 大森純子, 川崎千恵, 中野久美子, 他 (2021) : 原子力災害に備える保健活動に関するエスノグラフィー —原子力発電所立地区域の市町村保健師の内情の開示—, *日本地域看護学会誌*, 24 (1) : 4-12.
- Ohta, R., Matsuzaki, Y., Itamochi, S. (2021) : Overcoming the challenge of COVID-19 : A grounded theory approach to rural nurses' experiences (和題 : COVID-19へのチャレンジに勝利する地方の看護師の経験へのグラウンデッド・セオリー・アプローチ), *Journal of General and Family Medicine*, 2 (3), 134-140.
- Prasad P. (2005) / 箕輪康子 (2018) : 質的研究のための理論入門, 78-95, 京都 : ナカニシヤ出版.
- 椎野信雄 (2019) : D. スミスの Institutional Ethnography の社会学を理解するためのキーワードをめぐって, *文教大学国際学部紀要*, 29 (2), 11-26.
- Spradley, J. (1979) : The ethnographic interview, 11-12. Belmont : Cengage Learning.
- Strandas, M., Wackerhausen, S., Bondas, T. (2019) : Gaming the system to care for patients : a focused ethnography in Norwegian public home care, *BMC Health Services Research*, 19, 2-15.
- 高橋 良幸 (2019) : A 会に属する日本からの英国永住者の老年期の慢性障害に備える健康の視点 機関紙を用いた予備的研究, *東邦大学健康科学ジャーナル*, 2, 11-19.
- Winnington, R., Cook, C. (2021) : The gendered role of pastoral care within tertiary education institutions: An autoethnographic reflection during COVID-19, *Nursing Praxis in Aotearoa New Zealand*, 37 (Special Issue COVID-19), 37-40.
- 山本 佳世子, 葛西 賢太, 打本 弘祐 (2021) : 宗教系病院における死亡した非信者患者及びその家族への宗教者によるケア, *天理医療大学紀要*, 9 (1), 13-23.